

1

① 先週

② 交わる

③ 台風

【「颱風」も可】

④ 用心

⑤ 遠方

【「要心」も可】

2

1 ア

2 弱

肉

強

食

3 I

オ

II

イ

4

よ

い

貝

が

ら

5

B・C

【「順不同・完答」】

6

ヤ

ド

カ

リ

は

7 I

1

II

2

3

1 お

さ

な

な

じ

み

2

ウ

3

か

4

ア

5

ご

ん

す

け

が

死

に

そ

う

6

す

ぐ

7

に

ゆ

う

い

ん

8

み

と

9

エ

配点

1 各2点×5=10点

2~3 各5点×18=90点

<計>100点

1 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①「先週」はすぐ前の週のこと。「しんによう」を正しく書こう。一週間が日曜日から始まることも知っておこう。「先月」はすぐ前の月のことだが、「先日」は少し前の日、「先年」は少し前の年のことである。②「交わる」は線や道が交差すること。人と人がつき合うことにも用いる。③「台風」は熱帯低気圧が発達して強い雨や風をとまなうもので、南の海からやってくる。「台」を用いたことには「屋台・灯台・台本・舞台・台地・高台」などがある。④「用心」は気をつけること。「火の用心・かぜを引かないよう用心する」などと用いる。⑤「遠方」は遠くのほうのこと。反対語は「近所・近辺・付近」である。「前方」「後方」などのことばもある。

2 1 「これ」がさしているのは「動物性プランクトンが食べ」るものである。直前のことばをさすと思いきんでエ「成長」を答えたり、「養分」を食べたと思ってウを答えたりしてはいけない。

2 「弱肉強食」は力の強いものが弱いものをえじきにして栄えること。四字熟語やことわざや慣用語もどんどんおぼえよう。

3 I 海では弱肉強食のおきてが支配している ↓ しかし ↓ ヤドカリとイソギンチャクのように別の生物がたすけあっている場合もある。

II 強いヤドカリなら、いつでもいい貝がらを手にいられるだろうか。(↓わからない) ↓ そこで ↓ 弱いヤドカリによい貝がらをあたえ、強いヤドカリにぼろぼろの貝がらをあたえて、強いヤドカリの追いつき行動が始まるようにしてみた。

4 ヤドカリが「いつも」「さがして」いるものである。「宿」なら「貝がら」が答えになる。

5 Aは「宿から追いだされた」ヤドカリで、Bはその反対である。Cは「ふたたび追いつきにかか」るヤドカリで、Dはその反対である。Eは「こんどは」「できませぬ」とあるので、前は追いつきだされたヤドカリになる。

6 前半は海の生物たちのつながりの話で、食べたり食べられたり、たすけあったりしている。ヤドカリだけの話をしていくのではない。後半は、強いヤドカリは弱いヤドカリを追いつきだしてよい貝がらをついてあげようという話であった。ただし弱いヤドカリもいつもばわればかりではないのであった。

7 I 「ヤドカリとイソギンチャク」は「たすけあって生きていく」とあった。「共同生活をしていても、片方だけしか利益をえられない場合」や「片方に害をあたえて寄生する」場合とはちがうのである。

II 「できる」で終わらず、「できるのでしょいか」となっていた。問3のIIで考えたように、そのあとで実験を行ったしかめている。すると、弱いヤドカリが「貝がらに引っこんだまま」「外にでてこない」ことがあるとわかった。

3

1 「いがらしくんは、ようちえんのとときから」の段落に、二人が幼いころからのともだちであることが書かれている。

2 「おはよう！」の最後の「よう」が始まることばをならべている。「だじゃれ」のようなもので、大きな声でひとおどかしたり「コチョココチョマン、さんじょう」をしたりするお調子者のいがらしくんが、ふざけたあいさつをしているのである。あとの「どうしちゃったの」につづけて「のろま」と「ノーベルしょう」をならべていた。

3 「うかない顔」は心配ごとなどがあって晴れやかでない顔つき、しずんだ顔つきのことである。

4 ことばの順番を変えてつかう「倒置法」になっている。倒置法を知らなくても「いきをすえるだけすって」「いっぱい」ためたことはわかるだろう。そもそも「しのびよった」に「いっぱい」はふさわしくない。

5 にしやんにげんきがないのは「ごんすけ」のことを心配しているからであった。

6 いがらしくんはにしやんを「コチョココチョ」とくすぐって笑わせて、「げんき」を出させようとしているのだが、にしやんはとてもそんな気分になれないのである。

7 あとで「げんきをとりもどして」退院している。ごんすけは「びょうき」と「トシ」で入院したのである。

8 あとでいがらしくんが「みとるって、なに？」とたずねているので、その前に「みとる」ということばが出てきているはずだと考える。ただし「てやる」が付いて「みとってやる」という形になっている。

9 いがらしくんは「死ぬときに、いっしょにいてやる」と聞いて「ウワツ」と声をあげている。「こわい」と思ったから「こわくない？」とたずねたのである。このとき、いがらしくんは「こわい」いうことばを「ぶきみだ」という意味で用いている。にしやんはごんすけが死ぬのは「つらい」と思っているのである。